

= Match Report =

平成30年度栃木県高等学校サッカー新人大会

決勝

2018年2月17日(土)

10:00 kick off 会場(那須スポーツパークふれあいフィールド)

矢板中央高校

vs

宇都宮白楊高校

4

1 - 0
3 - 0

0

PK

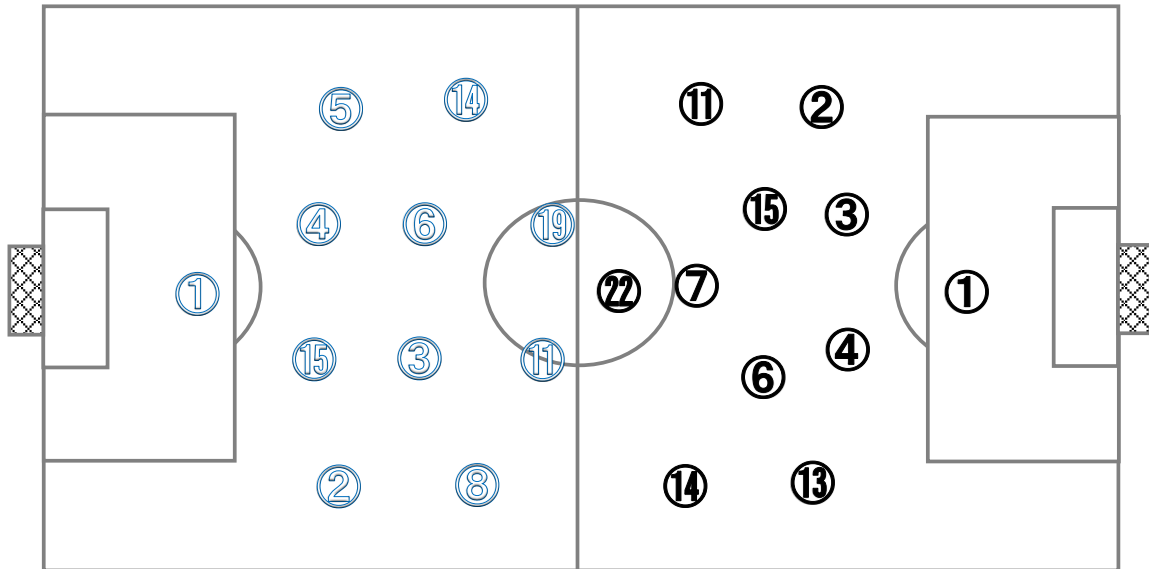
-

矢板中央高校

宇都宮白楊高校

基本システム 1 - 4 - 4 - 2

基本システム 1 - 4 - 2 - 3 - 1



【Match Report】

第1シード矢板中央とノーシード宇都宮白楊の対戦。矢板中央1-4-4-2、宇都宮白楊1-4-2-3-1でスタート。両チームがロングボールを多用する。矢板中央はFW⑪望月をターゲットにロビングボールを送り、セカンドボールを収めて攻撃を構築する。対する宇都宮白楊は、30m前後のライナー性のパスをFW⑳三星に入れて、サイドに展開する形をとる。ともにノージャッチではない、意図を持った精度の高いダイレクトプレーが多いダイナミックな展開となる。切替が早く、ミドルサードにスペースが少ない中で、25分にMF⑳板橋のワンタッチスルーパスを前線のFW⑪望月が決めて矢板中央が先制。追いかける宇都宮白楊は2回ビッグチャンスを迎えるが得点には至らない。様相は変わらず矢板中央が1点リードで前半を終えた。

迎えた後半、48分にPKをDF④白井、49分に流れの中からMF⑳板橋がゴールして一気に突き放した。大勢は決した中で、宇都宮白楊はスコアに影響されることなく、高い集中力をもって組織的な守備を継続する。攻撃時にはMF⑦寺田とMF⑩伊藤が、右サイドで良い関係性からシュートチャンスを作り出すも得点には至らない。徐々にフィジカルの差が出始めた69分、矢板中央MF⑳板橋が追加点を決めて矢板中央が4-0で勝利を収めた。

敗れた宇都宮白楊は、切替の意識と守備の連動性が高く、前半に得点機を数多く作った。臆することなくラインを高く保ち、前線からプレスをかけ続けた前半の戦い方は矢板中央を苦しめた。その健闘ぶりは称賛に値する。

勝利した矢板中央は、県内トップクラスの高さ・スピード・テクニックを基盤に、攻撃時のボールを受ける予備動作、3人目の準備、守備時の的確なポジショニングや連動性を十分に発揮した。選手交代にもチームの意図が色濃く反映され、完勝といえる内容であった。プリンスリーグでの健闘に期待する。

記載責任者 所属(今市高等学校) 氏名(北村 真一)